



出遇い

宗教部長 普賢保之

新入生の皆さん入学おめでとうございます。これから始まる学生生活に胸躍らせていることでしょうか。これからの四年間は皆さんにとって人生の礎を築く重要な時間となるに違いありません。クラブ活動に精を出すことや友人と楽しい時間を過ごすことも大切です。しかし、本分は学びにあること忘れてはなりません。

悪人正機説は親鸞聖人が初めて説いたものではなく、法然聖人が既に弟子に説いていた説だといことが分かります。それでは法然聖人が初めて説いたのかというと、全く同じ言葉ではありませんが、似た内容の言葉が法然聖人と親鸞聖人が尊敬された中国唐代の善導大師の言葉にも見られます。詳しくは講義の時に聞いていただくとして、悪人正機説一つとってもこれまでの常識とは違っています。自分が常識だと思っていたことが覆されていくことには、抵抗もあるかも知れませんが、きつと感動も覚えるはずですよ。仏教学に限らずどの分野でも同じようなことではないでしょうか。また答えは一つではないということも学ぶことでしょう。たとえば悪人正機説といえは親鸞聖人が説いた説だと思われている人も多いいでしょう。確かに弟子の唯円房が書いた『歎異抄』の第三条には、親鸞聖人が「善人なほもつて往生をとぐ。いはんや悪人をや」と唯円房に語ったことが記されています。しかし、ほとんど同じ内容の言葉が法然聖人の弟子がまとめた伝記にも、法然聖人の言葉として出てくるのです。そうすると

ある卒業生は現在、張り切って仕事をしています。在学中には大きな挫折を味わい退学することも考えたこともありましたが、講義の際にはいつも前の席に座り一所懸命講義を聞いていました。あるとき睡眠に襲われたので、必死に戦っている様子が見て取れました。体は大きく前後左右に揺れ、最後は白目を剥いて

睡眠に負けてしまいました。微笑ましい姿でした。またある卒業生は私が講義中によく口にしていたのか、会う度に「阿彌陀仏によってありのままの私がそのまま救われるのですよ」と言っていて微笑む。全くその通り。京都女子大学からは建学の精神に基づいた教育を理

本学では仏教学が必須科目となっています。一回生と三回生時に仏教学を学びます。入学式も仏式で行われました。どのようにして仏教学が必須で八単位もあり、入学式も仏式で行われるかといえば、本学は親鸞聖人が大切にされた仏教を建学の精神としているから、つまり本学を創立した目的が仏教精神を根底に置いた教育を目指しているからです。本学を創立するに当たり、仏教精神に基づいた教育を目指して本学の礎を築いた甲斐和里子先生をはじめ、多くの方々の尽力に依ることを忘れてはなりません。保護者や新入生自身の中には、無理矢理に仏教を信仰することが求められるのではないかと心配する方もいるかも知れませんが、決して信仰を押しつけたりするものではありません。

私は本学に赴任してから、専門の領域を越えてお付き合いさせていただいている先生や職員の方々がいます。その中のお一人に既に退職されて八年近くなる黒田克正という先生がいらっしゃいます。先生は画家で発達教育学部では表現文化を担当されています。心の相談室の壁画は先生の作品です。ぜひ一度ご覧になって欲しいと思います。タイトルは「誠なるかな、悲しきかな、喜ばしきかな」です。親鸞聖人の主著である『教行信証』に出てくる言葉です。先生と知り合うきっかけは、同じ会議のメンバーになったことです。それ以来、退職された今でもお付き合いがあります。私は絵のことは全く分かりませんが、先生も仏教の内容や親鸞聖人についてそれほど造詣が深いわけではありませ

驚きと喜びの場
また大学に入るとそれまで常識と思っていたことが、実は違っていたということも経験することです。先生と知り合うきっかけは、同じ会議のメンバーになったことです。それ以来、退職された今でもお付き合いがあります。私は絵のことは全く分かりませんが、先生も仏教の内容や親鸞聖人についてそれほど造詣が深いわけではありませ

また大学ではたっぶり時間がありません。多少の回り道を気にしないことです。親鸞聖人も回り道をしています。九歳で僧侶となり、二十年間比叡山で修行されています。そして二十九歳の時にそれまでの自力修行と決別して、知恩院の近く

四月は新入生にとって楽しくもあり憂鬱な月でもあろう。新しい友達との出会いもあり何もかも新鮮に感じられる。一方で、初めての一人暮らしで不安を抱えている人もいることだろう。分からないことは教職員や先輩に聞けば親切に教えてくれる。一人で問題を抱え込むことはない。四月末からは連休に入り一息つくこともできる。大学では様々な行事が行われる。五月二十一日には降誕会(親鸞聖人の誕生を祝う法要)がある。昨年は僧侶で内科医、大学の学長でもある佐々木恵雲先生にご講師として来ていただいた。お話の中である看護の方のことを紹介された。その看護師さんは患者に非常に評判が良いという。医療従事者の中でも話題になつてきたという。

私自身も病気になる前は、評判の看護師さんのお世話になっていました。私も心も入つてくる。身も心も単に性格の問題ではなく、考えるだろうか。現実として育まれた柔らかい心を持たれた方なのかなるかろうか。(普)

本師龍樹菩薩は大乗無上の法をとき歎喜地を証してぞひとへに念仏すめける
〔高僧和讃〕 龍樹菩薩 第三首

悪人正機説は親鸞聖人が初めて説いたものではなく、法然聖人が既に弟子に説いていた説だといことが分かります。それでは法然聖人が初めて説いたのかというと、全く同じ言葉ではありませんが、似た内容の言葉が法然聖人と親鸞聖人が尊敬された中国唐代の善導大師の言葉にも見られます。詳しくは講義の時に聞いていただくとして、悪人正機説一つとってもこれまでの常識とは違っています。自分が常識だと思っていたことが覆されていくことには、抵抗もあるかも知れませんが、きつと感動も覚えるはずですよ。仏教学に限らずどの分野でも同じようなことではないでしょうか。また答えは一つではないということも学ぶことでしょう。たとえば悪人正機説といえは親鸞聖人が説いた説だと思われている人も多いいでしょう。確かに弟子の唯円房が書いた『歎異抄』の第三条には、親鸞聖人が「善人なほもつて往生をとぐ。いはんや悪人をや」と唯円房に語ったことが記されています。しかし、ほとんど同じ内容の言葉が法然聖人の弟子がまとめた伝記にも、法然聖人の言葉として出てくるのです。そうすると

日本では1978年頃以降、低出生体重児(出生体重2500g未満の児)が増加傾向にある。2008年には低出生体重児の比率が約10%に達した。胎児は受精後第8週から第38週までに8gから3000g以上に発育する。妊婦は十分な栄養摂取が必要であるが、痩せ嗜好による若年層からのダイエット習慣により、低体重児を出産してしまうのである。イギリスのバーカー博士がDOHAD説(成人病胎児期発症起源説…Developmental Origins of Health and Disease)を提唱したのは1986年、日本では2012年にDOHAD研究会ができ、妊娠中に栄養不足

欠陥・多動性障害の発症率が高いこと、また幼児のころからの野菜不足、偏った食生活を送った子どもにも精神的発達障害が多く見られることが示されたのである。つまり、出生児の生涯にわたる健康は妊娠中の母親の栄養摂取状態だけでなく、妊娠中の母親の健康状態が深く影響することがわかったのである。人間の命の源を創る女性においては、特に健康的な体格に対する正しい認識を持つこと、心身ともに健康を維持するための食生活、生活習慣を実践する必要がある。

そのためには国民全体が体格に対する正しい認識を持つように、食育基本法等の推進計画を速やかに確実に実践し、早急に若年層の痩身を食い止めるなければならない。私たちの健康は私たちの親から受け継がれ、そして子供に伝えられる。我々の体は自分一人の体ではなく、日本の未来を担う次世代の人々の健康の源でもあるのだ。今生きている私たちは過去から未来へのバトンリレーの大事な担い手である。健康と命を繋ぐ鍵は私たち一人一人の実践にかかっている。幸いにも健康を維持できた私のこれからの目標は、自立した高齢者(平均寿命と健康寿命が一致になること)である。

四月は新入生にとって楽しくもあり憂鬱な月でもあろう。新しい友達との出会いもあり何もかも新鮮に感じられる。一方で、初めての一人暮らしで不安を抱えている人もいることだろう。分からないことは教職員や先輩に聞けば親切に教えてくれる。一人で問題を抱え込むことはない。四月末からは連休に入り一息つくこともできる。大学では様々な行事が行われる。五月二十一日には降誕会(親鸞聖人の誕生を祝う法要)がある。昨年は僧侶で内科医、大学の学長でもある佐々木恵雲先生にご講師として来ていただいた。お話の中である看護の方のことを紹介された。その看護師さんは患者に非常に評判が良いという。医療従事者の中でも話題になつてきたという。

私自身も病気になる前は、評判の看護師さんのお世話になっていました。私も心も入つてくる。身も心も単に性格の問題ではなく、考えるだろうか。現実として育まれた柔らかい心を持たれた方なのかなるかろうか。(普)

平成30年4月 月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当	講師他
16	月	1	現社1A	中西	ビデオ
		2	史学1A	野村	ビデオ
		3	国文1A	普賢	ビデオ
		4	現社1B	黒田	ビデオ
17	火	1	現社2A	西	ビデオ
		2	現社2B	森田	東光 直也
		3	英文3A	黒田	塚本 一真
		4	心音1	森田	ビデオ
18	水	1	現社3A	黒田	清基 秀紀
		2	現社3B	黒田	清基 秀紀
		3	英文3A	森田	野村 淳爾
		4	現社3C	森田	野村 淳爾
19	木	1	現社3A	黒田	黒田 義道
		2	現社3B	黒田	黒田 義道
		3	現社3C	黒田	黒田 義道
		4	現社3D	黒田	黒田 義道
20	金	1	現社4A	黒田	ビデオ
		2	現社4B	野村	ビデオ
		3	史学1B	上野	ビデオ
		4	国文1B	黒田	ビデオ
23	月	1	史学3A	竹本	三浦 真誠
		2	教育3	普賢	保之 眞
		3	英文3B	清基 秀紀	眞 眞
		4	法3	森田	眞 眞
24	火	1	国文3B	藤井 秋本	藤井 隆平
		2	国文3C	藤井 隆平	藤井 隆平
		3	現社3B	東光 直也	眞 眞
		4	英文1B	三浦 眞誠	ビデオ
25	水	1	心音3	塚本 眞	眞 眞
		2	現社3B	東光 直也	眞 眞
		3	英文3B	清基 秀紀	眞 眞
		4	現社3C	黒田	眞 眞
26	木	1	英文1B	三浦 眞誠	ビデオ
		2	心音3	塚本 眞	眞 眞
		3	現社3B	東光 直也	眞 眞
		4	英文3B	清基 秀紀	眞 眞
27	金	1	心音3	塚本 眞	眞 眞
		2	現社3B	東光 直也	眞 眞
		3	英文3B	清基 秀紀	眞 眞
		4	現社3C	黒田	眞 眞

平成30年5月 月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当	講師他
7	月	1	造形1	井上	ビデオ
		2	食物3	普賢	中西 俊英
		3	史学3B	東光	三浦 眞誠
		4	現社3B	西	黒田 義道
8	火	1	現社3B	普賢	井上 博文
		2	法3	森田	ビデオ
		3	国文3A	森田	(未定)
		4	現社3A	森田	(未定)
9	水	1	食物1	塚本	ビデオ
		2	教育1	三浦	眞誠
		3	現社1C	那須	竹本
		4	現社1D	那須	竹本

◎1回生…京女百年史ビデオ
※造形1、食物3、史学3B、法3、食物1、教育1の月例礼拝は5、6、7月に行います。

四月は新入生にとって楽しくもあり憂鬱な月でもあろう。新しい友達との出会いもあり何もかも新鮮に感じられる。一方で、初めての一人暮らしで不安を抱えている人もいることだろう。分からないことは教職員や先輩に聞けば親切に教えてくれる。一人で問題を抱え込むことはない。四月末からは連休に入り一息つくこともできる。大学では様々な行事が行われる。五月二十一日には降誕会(親鸞聖人の誕生を祝う法要)がある。昨年は僧侶で内科医、大学の学長でもある佐々木恵雲先生にご講師として来ていただいた。お話の中である看護の方のことを紹介された。その看護師さんは患者に非常に評判が良いという。医療従事者の中でも話題になつてきたという。

私自身も病気になる前は、評判の看護師さんのお世話になっていました。私も心も入つてくる。身も心も単に性格の問題ではなく、考えるだろうか。現実として育まれた柔らかい心を持たれた方なのかなるかろうか。(普)



自己体験発掘調査

文学部教授 綾村 宏

歴史公園平城宮跡

かつて文化庁のもと奈良文化財研究所(奈文研)が発掘調査から整備、建物復元までを担当していた平城宮跡は、二〇〇八年国営公園として整備することが決まり、国土交通省の管轄のもと国営歴史公園となった。その平城宮跡歴史公園開園記念の式典がこの三月二四日に執り行われた。平城宮跡にはいままでと違った文化財として活用するという新しい展開が待っているとさえいえる。私は本学で勤務することになった一二年前まで、その奈文研に三〇年余り勤務した。その前半は平城宮跡の発掘調査と出土木簡の調査研究であり、後半は奈良地域を中心に寺社で所蔵されている文書記録、経巻聖教の調査研究であった。

発掘調査回顧

新年度のはじめの「ふんだりけ」で、自分の過去を振り返るのもどうかと思ったが、あと一年で定年退職を迎える者の自己体験から思うことを述べさせてもらうこととする。まず奈文研での勤務のスタイルからである。発掘調査の方は、一年のうち三ヶ月が平城宮跡での発掘現場に、残り期間は木簡の釈読と内容研究に従事した。発掘現場は六、七人の班で担当し、同じ班が同じ季節にあたるように、一年毎に担当の季節が繰り返されるように班編成されていた。寺社の書跡資料調査は、基本的に同じ時期に

研修現場

最初の現場は、新入社員研修の現場である。調査区は平城宮内裏北東の一郭であった。東と南が宮跡構内を走る道路で区画された場所である。その現場では杉材一木造りで径一・六五メートルの井筒が出現した。その井筒は現在も平城宮跡遺構展示館で保存処理されている。展示されている。井戸は、周辺に凝灰岩切石が敷かれた洗い場などある本格的なものであり、遺構は現地復元されている。それまで発掘調査にかかわったことがなかった人間にとつて、車を通る道路のすぐそばの土中から思いがけないものが見つかるというという体験は衝撃的であった。

宮跡庭園

その二年後、いまは宮跡庭園として特別史跡になっている平城左京三条二坊の郵便局建設予定地の調査でも印象深い光景を目の当たりにした。夏のトレンチ調査で池底の敷石の存在が確認され、秋の班で本格的な調査になった。池の輪郭が判明した後、埋土の排土にな

るが、その最下層の粘土層を掘りあげるとその下から三〇センチメートルほどの大きさの石が整然と敷き詰められた状態で検出された。奈良時代に造られた池が完全な形で発見されたのである。

大嘗宮跡

また大嘗宮の遺構の発見も印象に残る。平城宮第二次朝堂院の朝庭部分は、北中央に大極殿、周辺に朝堂の建物が建ち並ぶ広場である。儀式の時、官人たちが整列する場所であり、当然建物遺構はないはずである。しかし平城宮跡を整備していくためには、建物遺構がないと想定される場所も、ないことの確認が必要である。そこで発掘調査が行われたのであるが、その場所では建物としては大嘗宮の遺構が三時期の立て替えを示して検出されたのである。それらも現地表面足下ともいえる浅い遺構面での発見であった。

記憶と記録

いま自身自身の発掘調査体験でとくに印象深かった事例をあげてみた。そこには想定外の発見がやはり印象度が高く、記憶に残っている。しかし自分の記憶より、その発掘調査の客観的な記録が当然のことながら価値がある。遺った遺構もあれば、工事で消滅した遺構もある。記録によつてのみ未来においてその発掘調査成果が判断されることになる。記録にも限界があるが、少なくとも個人の記憶にのこる実体験の記録化が求められているのであろう。

長屋王家木簡

このように想定していない場所でも思いがけない発見があると、発掘調査の成果として印象に残ることとなる。その最たるものが長屋王家木簡の発見であろう。平城京左京三条二坊に四町占地の大規模な邸宅跡が見つかったのは、その場所にデパートが建設されるのにもなう事前調査であった。発掘調査もほぼ建物予定地の大部分を終え、

調査が終了した場所では建設工事の基礎工事が始まりつつあった段階のことである。立ち退きの関係で発掘調査されずに残っていた部分を、工事により遺構が残らないことが事実なため、発掘することになったのである。そこで短期間で掘りあげるため重機などを利用しての調査に着手した。現場では調査員が重機での排土状況をじっと監視していたが、排土のなかに木片が含まれていることが判明し、重機作業をやめて手掘りの調査に切り替えての発掘が行われた。その結果長屋王家木簡が捨てられていた溝状の遺構の全容が確認でき、木片を多く含んだその埋土をコンテナに収納して事務所に持ち帰ることになった。その木簡の洗い出しには三年ほどの期間を要した。

お知らせ

* 新入生本願寺参拝 *

新入生全員が西本願寺に集い、入学の喜びと大学生活への新たな決意を誓います。

日時 平成30年4月5日(木)
10:00~11:40
《9:40集合厳守》

場所 西本願寺 御影堂

* 聖典、お念珠を持ってきてください。
* 当日は堀川七条にプリンセスラインバスが臨時停車します。詳しくは新入生オリエンテーション日程表(裏面)を確認してください。



* 花まつり(灌仏会) *

4月9日は仏教の開祖、釈尊(ゴータマ・シッダルタ)のお誕生日です。その日を「花まつり」(灌仏会)としてお祝いします。みなさんも甘茶をかけて一緒にお祝いしませんか? お祝いの甘茶あめを差し上げます。

日時 平成30年4月9日(月)
10:00~16:30
場所 A・B・Y校舎正面玄関前

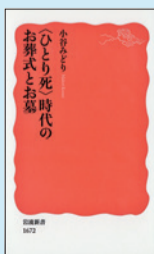
12:25からB校舎玄関前にて雅楽部によるお祝いの演奏を行います。



シリーズ 智慧の蔵 ⑮

『〈ひとり死〉時代のお葬式とお墓』

小谷みどり 著 岩波新書 二〇一七年



現代の日本社会は、核家族化や少子化、高齢化が進み、人口減少社会に突入した。それにより、これまでの経済や地域社会は大きな変革が迫られている。葬儀や墓も例外ではない。本書では、諸外国の葬送事例や各種アンケート結果などから、日本特有の問題も明らかにしている。以前、評者は首都圏の葬儀業者を対象として、祭壇がなく宗教儀礼も行わない「直葬」の増加理由について調査したことがある。すると、遺族が「迷惑をかけたくない」との理由で「直葬」を選んでいくケースの多いことが分かった。本書でも、簡略化した葬儀を選択するのは、同様の理由を述べる遺族が多いことに触れている。ただ、自立できなくなると、誰もが他人の手を借りなければ生きてはいけない。そこで、本書では「まわりにかける手間を迷惑とさせないような方法を考えた方がよい」と提案する。「手間」と「迷惑」のさじ加減は、人々との関係のなかで変化するのである。「大切な人」であれば必要な「手間」と捉えるし、「関係のない人」であれば「迷惑」な行為と感ずるだろう。つまり、現代の葬式と墓に関する問題は、人々とのつながりの喪失が表出していることを示している。さらに、本書は「お葬式やお墓は不要と考えるのではなく、託せる人を探し、信頼関係を築いておくことこそが、元氣なうちに私たちにできる自助努力である」というメッセージを込めて教える。

法のことば

本師龍樹菩薩は

大乘無上の法をとき

歓喜地を証してぞ

ひとへに念仏すすめける

(高僧和讃) 龍樹菩薩第三首

親鸞さまは、念仏の教えを伝えてくださったインド・中国・日本七人の高僧を挙げられ、その高僧方の功績や説かれた教えを歌にされて、『高僧和讃』に著されました。今年度の「法の言葉」は、この七人の高僧についての和讃を紹介いたします。最初の今回は、インドの龍樹菩薩(ナーガールジュナ)です。二世紀半ばに南インドに生まれた龍樹菩薩は、それまでの仏教とは違って自利利他を強調する大乘仏教の教えを説かれました。そして、五十二段階ある菩薩の位の中、四十一番目の「歓喜地」の位に至られ、たぐさんの大乘仏教の論書を著されましたが、『十住毘婆沙論』の「易行品」において、阿弥陀さまの念仏の教えを示して、人々にすすめられたのです。その功績を讃えて、親鸞さまは七高僧の第一番目に挙げられるのです。

(森田 眞円)

(那須 公昭)